

## 企画から施工までのプロジェクトを自社管理

# 地域との連携を模索する社寺建築

## 寺院サービス(株)

### 回復基調にある社寺建築需要

伝統的な木造建築の華と言えは、何と云っても社寺建築だ。現在でも全国で年間一千数百棟が建築されている。しかし、実際に建築を手がけているところの話を聞くと、最近では後継者不足、宮大工をはじめとする伝統技能をもつ大工の高齢化や若年入職者の極端な減少、景気低迷により寄付金等の建築資金不足などで、社寺建築市場は非常に厳しい環境となっているのだ。

一方、公共建築物木材利用促進法の制定や住宅市場の縮小などで、木造住宅を手がけてきた工務店、プレカット関連の業界では、来年以降大幅に縮小する住宅に代わる木造建築の新たな市場として学校等が大いに注目を集めるようになった。そんな中で、今後の木造建築の市場拡大に欠かせないベテラン大工等は益々重要になっていくが、木造技術の宝庫であり、職人を育ててきた伝統建築市場が縮小。その一方で、学校等の公共建築、商業施設、高齢者施設等が木造化に大きく動き出し、今後の木造建築市場での伝統建築と新たな市場

のアンバランスが表面化しているのがある。また、団塊世代の高齢化突入で高齢者市場は益々拡大しつつあるが、その中で宗教関連として社寺の建て替え、修復等の需要も増大するとの期待もある。

日本建築の伝統を支えてきた社寺建築が今どうなっているか。今、全国に神社や寺がどれくらいあるのだろうか。文化庁の宗教年鑑によれば、宗教団体は22万団体（宗教法人、非法人合わせた数字。平成23年現在）ある。そのうち神社が8万1389、寺院が7万7394、教会が3万2718である。また、信者の総数は1億9700万人ほどで、日本の人口の倍近い数字になっているが、これは二重所属（神社の氏子と寺院の檀徒）などによるものだ。

では、本堂、社殿、教会施設など宗教用建物は現在どれくらいあるか。特にここで注目しているのは、木造建築としての社寺建築だ。国土交通省の平成20年法人建物調査によると、全国の宗教用建物の総延べ床面積は4348万㎡で、その内6割に当たる2567万㎡が木造建築である。しかも、その半数以上が昭和25年以前に建築されたものであり、

宗教用構造別推移

構造		総計	木造	鉄骨鉄筋 コンクリート造	鉄筋コン クリート 造	鉄骨造	コンクリート ブロック 造	その他
		建築物の 数(棟)	建築物の 数(棟)	建築物の 数(棟)	建築物の 数(棟)	建築物の 数(棟)	建築物の 数(棟)	建築物の 数(棟)
H 23 年度	全建築物計	585,930	428,870	805	20,510	125,006	1,198	9,541
	宗教用	1,618	1,063	17	173	338	9	18
H 24 年度	全建築物計	616,510	449,936	830	21,206	131,540	1,205	11,793
	宗教用	1,532	1,011	8	159	323	6	25
H 25 年度	全建築物計	676,684	499,315	810	22,019	139,205	1,445	13,890
	宗教用	1,758	1,206	6	189	325	2	30